

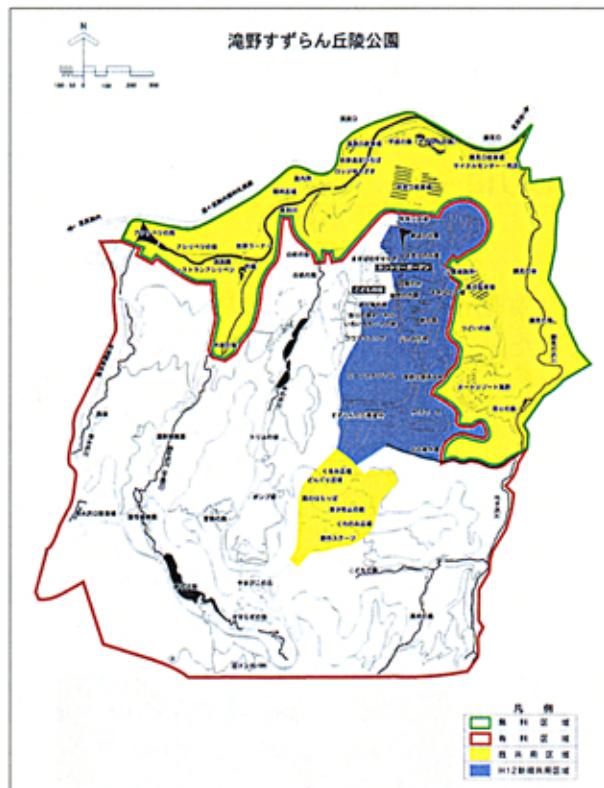
滝野すずらん丘陵公園

「カントリーガーデン」の開園と 「森のはなとぴあ2000」の開催



北海道開発局
建設部道路計画課
建設監督官(国営公園担当)

太田 広



はじめに

来る7月15日、滝野すずらん丘陵公園（札幌市南区）に「カントリーガーデン」を主要施設とする「中心ゾーン」が新たに開園する。本稿では「カントリーガーデン」の概要と、この開園を記念して開催される市民参加型イベント「森のはなとぴあ2000」について述べたい。

1. 滝野すずらん丘陵公園の概要

滝野すずらん丘陵公園は、道央圏を中心とする広域的レクリエーション需要に対応するため、北海道開発局が整備を進めている全体計画面積395.7ヘクタールの国営公園（国が設置する都市公園）である。「自然とのふれあい」をテーマに、イメージカラーを森林・草原・芝生の「みどり」、滝・渓流・湖の「みず」、雪・氷の「しろ」とし、これらにふさわし

い公園施設の整備を行うこととし、全体を「渓流ゾーン」「中心ゾーン」「宿泊ゾーン」「森林スポーツゾーン」「自然観察ゾーン」「保全ゾーン」の6つのゾーンに区分して整備を進めている。

昭和53年度に整備着手し、昭和58年7月に「渓流ゾーン」「保全ゾーン」の一部30ヘクタールを開園して以来、平成元年9月には「青少年山の家」、平成6年6月には「オートリゾート滝野」、平成11年12月には「スノーパーク」など、順次追加開園を行っており、現在までに154haを供用している。

主な供用施設としては、炊事遠足広場、釣り堀、サイクルセンター、青少年山の家、オートリゾート滝野、歩くスキーコース、スノーパークなどがあり、年間約50万人の利用者に親しまれている。

2. 「カントリーガーデン」の概要

「カントリーガーデン」の計画地は、開拓時代、札幌を建設するための木材供給基地として樹木が伐採され、戦後は一時農地として開墾され、その後放棄された土地であり、良好な樹林地も少ないとから、公園計画において高密度な利用施設を整備する区域として位置付けられている。

「カントリーガーデン」は、広々とした丘陵地に北海道らしい田園風景を再現し、この中に700種以上の草花が咲き乱れる花壇がいくつも展開される花の庭園である。

カントリーガーデン(収穫の谷)



●環境とくらしの接点として

地球温暖化の防止や生物多様性の保全などの環境問題への関心が高まる一方、近年のガーデニング・ブームに見られるように、身近な生活空間で花や緑と親しむ人々が着実に増えている。自然や環境への関心や理解は様々だが、このような関心を持つ多くの人々に対して公園は、花や緑を通して環境やライフスタイルを考えるきっかけを提供することにより、身近な生活空間から地球規模の環境までをつなぐ接点としての役割も果たせるものと考える。

このようなことから、「カントリーガーデン」の基本テーマは「花と緑のある北のくらし」とし、園芸や都市緑化に関する情報の発信や花文化の形成を目指すとともに、これらの情報や文化が公園内でのレクリエーションに止まらず、新しいライフスタイルの提案へつなげていきたいと考えている。



カントリーガーデン（くらしの花園）

●花と緑のあるライフスタイルの提案

「カントリーガーデン」では、北海道における身近な生活空間の緑化に役立つ、花を生かした様々な修景手法の展示や北方系の新しい樹木、宿根草、グランドカバープランツなど、今後、北海道において有効な植物材料の導入を積極的に行うとともに、屋上緑化など最新の緑化技術を積極的に取り入れる。また、多様な生物の生息空間（ビオトープ）の形成を図るために、土、石等の自然素材によるせせらぎ、草刈りを行わない草原、原則としてコンクリートを用いない多孔質な石積みなどを整備する。

さらに、公園ボランティアとの連携に基づく、工芸植物の栽培、収穫された植物材料の加工、花壇の模様替えなど、市民参加による管理運営を模索することとしている。

●長寿・福祉社会の公園づくり

長寿・福祉社会に向け、ノーマライゼーションは都市公園に限らず広く社会基盤整備の基本理念となっている。滝野すずらん丘陵公園では、高齢者や障害者など全ての人が利用しやすい空間となるよう、段差のない園路、ゆったりトイレ、わかりやすいサ

インなどユニバーサルデザインを採用するとともに、車椅子の利用者も植物に触れることのできるようレイズドベッド（苗床を高くした花壇）による植物展示も計画している。

3.「森のはなとびあ2000」の開催

「森のはなとびあ2000」は、滝野すずらん丘陵公園「中心ゾーン」の開園を記念するとともに、花と緑にあふれた「カントリーゾーン」を活用し、都市緑化の推進と花文化の普及を目的に行う市民参加型イベントである。7月15日から23日までの9日間にわたり「カントリーガーデン」を中心に楽しい催しが繰り広げられる予定だ。

イベントの実施にあたっては、「カントリーガーデン」をはじめ、新たに開園する公園施設や花壇の魅力を知っていただき、花や緑とふれあい、暮らしと環境の関わりを考える機会を提供することにより、北海道の豊かな自然と文化に根ざした、花にあふれた生活と緑豊かなまちづくりの提案を行いたいと考えている。

おわりに

7月にオープンする「カントリーガーデン」をはじめとする区域は、既に無料で開園している渓流ゾーン等とは異なり、入園料をいただく公園施設となる予定である。ちなみに、現在、国営公園の入園料は、15才以上400円、6才以上15才未満80円、6才未満と身体障害者等は無料となっている。

「カントリーガーデン」が、入園料をいただく公園施設としてふさわしい内容を備えるとともに、来園者に満足いただける質の高い維持管理が行われることが期待される。その際、全ての維持管理を公園管理者が行うのではなく、公園利用者とのコラボレーションにより少しずつ公園を育んでいくことが、植物を主体とする公園にふさわしい管理形態であろうし、カントリーガーデンの理念実現への近道でもあると考えている。そして、そこで育てられた「芽」が「花と緑のある北のくらし」に生かされることを期待して止まない。

カントリーガーデン（花人の隠れ家）

